

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2019年5月5日（日）

主 題：「その知恵はどこからですか」

—上からか下からか—

テキスト：ヤコブの手紙3章13～16節

はじめに

- ・先月、タイのリゾート地、パタヤで振り込め詐欺グループの拠点が摘発されました。逮捕されたのは、なんと日本人の男15人でした。彼らは不法就労の疑いで逮捕されました。15人の「実働部隊」は大量の電話（IP電話約50台）を設置し、パソコン約20台、そして詐欺のマニュアルを完備していました。タイから、日本人が日本へ振り込め詐欺を繰り返していたのでした。
- ・発見されたアジトは、目を見張るような豪壮なプール付きの一軒家であったそうです。確認された被害は、これまでに約2億数千万円以上に上り、逮捕直前まで活動を続けていたようでした。
- ・「オレオレ詐欺事件」は、何度も注意が繰り返されてきましたが、被害は後を絶ちません。その理由は、手口が非常に巧妙化していることです。それは「悪知恵」というものでしょう。今回のように、外国から日本へ向けての実働部隊が発見されたのは初でした。しかし、専門家によれば「オレオレ詐欺事件」は日本発信で、今では台湾、中国などの海外へ広まっています。そしてまだまだ、このような悪知恵を働かせる人々がいるそうです。残念で、とても恥ずかしい限りであります。
- ・皆さん、一般的に、知恵と言ってもいろいろありますね。人を助ける知恵もあれば、人を不幸にさせる悪知恵もあります。本来、知恵は人を助けるべきものです。ヤコブは知恵について、次のように言いました。
3:17 **しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。**
 それがどうして、反対に働いてしまうのでしょうか。

- ・ヤコブはこの書簡の3章に入り、私たちの舌（言葉）の問題を扱ってきました。ところがここで、突然「知恵」の話題となりました。なぜでしょうか？それは舌（言葉）を管理するためには、知恵が必要となるからです。私たちの周りには、知識があっても知恵のない生き方をする人が多くいます。事実、「オレオレ詐欺事件」を引き起こす人たちは、悪知恵が大変働く人たちです。しかも、見分けがつかないほど巧妙に悪知恵を働かせます。それが、私たちが生きる今の時代（社会）です。
- ・ヤコブは、13節で「**あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。**」と質問しています。そこで、私たちは知恵の自己吟味から始めてみたいと思います

大切なポイント

1. ヤコブ時代のキリスト教会

- ・ヤコブの時代（AD60頃）は、ローマ帝国のキリスト教弾圧もなく、教会は各地で発展していました。世の中が平穏で平和であり、経済的にも恵まれ、繁栄している時代は、キリスト教会も「世俗的」になりがちです。
- ・人間は神の霊的なものを求めるよりも、ますます豊さを追求するようになります。その恐ろしいパン種が教会内にはびこってしまったのです。パウロの霊的キリスト教はうとんじられるばかりでなく、憎悪の対象にさえなっていました。そのような傾向に陥ってしまったキリスト教会に対して、ヤコブは信仰の基本を説きました。
- ・**3:13 あなたがたの中で、知恵があり分別があるのはだれか。その人は、知恵にふさわしい柔和な行いを、立派な生き方によって示しなさい。**

（新共同訳）

あなたがたは、キリスト教会がますます栄えていると言い誇っています。

しかし、本当に正しい知恵や分別を持っている人がいるのですか、と問うています。

- ・ここで言う「分別」（新改訳聖書は「賢い」）は、学問によるのではなく、人生のあらゆる経験を通して得たものです。そのような人が実際にいるならば、

3:13 その人は、知恵にふさわしい柔和な行いを、立派な生き方によって示しなさい。

（新共同訳）

と言いました。すなわち、謙遜になり、日常生活で接する多くの人々に「良い」行いを示してほしい、ということです。

- ・「**柔和な行い**」とは、毎日の生活の中で対人関係における態度のことです。私たちの日々の生活で、対人関係ほど難しいものはありません。今の時代も、対人関係がうまくできなくて、会社勤めのできない人がいます。

1) 当時のキリスト教会

- ・ヤコブは当時、キリスト教会には、3つの特徴（証拠）があるとしました。
 - ① 「**苦いねたみ**」：他人の成功や幸福を受け入れることができない、きびしい態度を示すことです。
 - ② 「**敵対心**」：利己的な野心を持ち分派を起こしたり、敵意をもって自分の目的を達成しようとする事です。原因は心の中にあります。人は心にあることを、行動として外に出すからです。
 - ③ 「**誇ること**」：これは真理に逆らって、誇ることを指します。真理とは福音のことです。イエス・キリストの福音を受け入れたら、十字架以外に誇りとするものはなくなります。しかし、福音を受け入れない人は自分を誇るものです。
- ・**3:14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。**

ヤコブが言うまでもなく、「**苦い妬みと敵対心がある**」ならば、真理に忠実ではありません。ここで最も恐ろしい語は、「敵対心」（利己的）です。この意味は、「党派を作る」ということです。日本国は民主主義政治といますが、その実態は集金能力がある政治家が自分に仲間を増やし、数の力を行使しているのです。党派、派閥が生まれ

るのです。

- ・約2000年前、ヤコブ時代のキリスト教会には、このような問題がありました。大変、残念であります。本来、神の教会にはあり得ないはずの問題がありました。それは現実でした。さらにヤコブは、彼らの知恵の問題の出所について述べました。

2) 悪霊から来る知恵

3:15 そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。

- ・このような知恵は、天から来るものではありません。この世（コスモス）に属し、悪霊に属するものです。肉とは「墮落した人間の性質」ことです。聖書はこう語っています。
2:14 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。

1コリント

- ・生まれながらの人間は、神のこと、神の御霊のことは分かりません。ですから、クリスチャンにとって、「この世」、「肉」、「悪霊」の3つは、神に出会う前の問題であったはずでした。

そのような「知恵」は何をもたらすかは、次のみことばで明らかです。

3:16 ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行ないがあるからです。

- ・皆さん！ ここまででお分かりのように、「偽りの知恵」をもたらす根本的原因は、制御されていない舌にあります。舌から出る言葉によって、ねたみ、敵対心、秩序の乱れ、邪悪な行いが生まれます。ヤコブは言いました。

3:8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。

私たちは、舌が制御されないならば、いかに恐ろしい混乱と破壊をもたらすかを知らなければなりません。

- ・では、私たちが舌を制御できないならば、どうすれば良いのでしょうか。神から「真の知恵」（天からの知恵）をいただくことです。神の助けをいただかなければ、舌の問題に勝利をおさめることはできません。そこで、次に神からの知恵について考えてみましょう。

2. 神からの真の「知恵」

1) 「知恵」は心である

- ・先ず、「知恵」とは何でしょうか。知恵（ギリシャ語で sophia:ソフィア）は、広辞苑によれば「物事の理を悟り、適切に処理する能力」と定義つけられています。知恵は実質的な問題を解決します。そして、自分の行動を選びとっていく判断力です。
- ・ヤコブが「知恵」という言葉を使う時、それは肉から出る知恵ではなく、「天から来る知

恵」のことで、知恵とは、心を支配する原理のようなものです。心にあるものが、人私を支配し、考え方や生き方に作用するのです。そういう意味で、聖書でいう「知恵」は心を支配する原理のようなものです。頭の問題ではなく、心の問題です。ヤコブは次のように薦めました。

1:5 あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。

- ・つまり、聖書は舌（言葉）の問題で失敗し問題を起こす私たちに、知恵を求めなさいと、薦めています。何という励ましでは、ありませんか。
- ・本当に知恵ある人の行動は、傲慢やでしゃばった態度ではありません。また知識の蓄積でもありません。「知恵」は、「柔和な行い」によって示されます。聖書が語る知恵は、単に問題解決する知恵や、行動力、判断力だけでなく、洞察力もあります。
- ・しかし、ここに「肉」という問題があります。肉から出る知恵とは「偽りの知恵」のことです。聖書でいう「肉」とは、私たちのきよめられてない、生まれながら性質のことです。

2) 肉の性質

- ・「肉」とは何でしょうか？ いろいろな説明ができると思いますが、私は2点上げてみたいと思います。
 - ① 短く言えば、肉の性質は「自分を第一にする」ということです。利己主義です。それが「肉」ということです。だれでも自分を愛します。人は自分が大事にされないと、おもしろくありません。自分を守るために言い訳をします。自分が失敗しても、すぐに誤りません。ちょっとしたことで、不機嫌になります。自分がかawaiiそうになります。これは誰でもあることで、自然なことでしょう。
 - ② もう一つ言えることは、「肉」の性質は、人を非常に意識することです。
 - ・人のことは問題ではありません。人がどうであるかということは、それほど問題ではありません。この私が神にどう取り扱っていただき、どう造り代えていただくかということの方が大事なことです。
 - ・私たちは日曜日、教会に来て神を礼拝します。しかし一方で、肉にしがみついている限り、神に取り扱われにくいのです。一つの家庭を考えても、さまざまな共同体、集まりを考えても、心の中にねたみや分裂心や敵対心があるならば、秩序は保たれません。どこかで、この問題に解決を与えなければなりません。
- ・私たちは、肉の性質にどのように反応するのでしょうか。心の中の姿に気がつかされることは、痛いことです。つらいことです。できれば避けたいことです。そこでいろいろな反応をします。たとえば、
 - ① 肉の性質（ねたみ、敵対心）は、皆もっていることだから、それは問題ではないと、自分に言い聞かせて割り切ってしまう人がいます。
 - ② 「ああ、そうだ！」と気づき、肉の性質を直そうと思い、祈るけれども、解決が与えられず投げ出し、諦めてしまう人もいます。

③ 別の人は、自分のそういう姿に光を当てられた時、砕かれ、神に求め、イエスの十字架の血潮を仰いできよめられていく人もいます。パウロがそうでした。

- しかし、聖書はそういう肉が、そのままであってはいけないと教えています。神はそういう自分を第1にする肉に光を当てて下さり、解決を与えてくださいます。それが解決されないかぎり、神が与えてくださる幸いを満喫することは難しいことです。

- パウロは自分を見てこう言いました。ローマ人への手紙

7:24 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

パウロは、神の光が当てられた人でした。彼の幸いな人生は、そこから始まりました。

3) 平和をつくる人

肉の問題は気づいた時に、神の前に速やかに出て助けを求めるならば、解決の道があります。神はみわざを持って答えてくださいます。そして神の前に成長させていただき、きよめられる生涯が始まるのです。ヤコブは舌（言葉）の問題の終わりに、こう言いました。

3:18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

- 舌（言葉）を制御できるのは、肉ではありません。肉の性質は、ねたみ、争い、分裂心、敵対心等です。上からの知恵（神の知恵）が必要です。その人が「平和をつくる人」です。
- 皆さん。「平和をつくる人」が蒔く種は肉の種ではなく、平和のうちに蒔かれる種です。平和、それはイエス・キリストご自身です。イエスにあって、人は平和の種を蒔き、平和をつくる人となることができます。

ま と め

主 題：「その知恵はどこからですか」

—上らか下からか—

- 今日、私たちは上からの知恵をいただいて歩む大切さを学びました。肉を宿とする私たちは、自力で肉に勝つことはできません。しかし、神はイエス・キリストによって、世に勝つ者としてくださいました。
- 聖書；「世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」

1 ヨハネ5:5

そして、私たちを「平和をつくる人」としてくださいました。

私たちは肉の種を蒔くのではなく、平和の種を蒔く聖徒とさせていただこうではありませんか。

3:18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

* God bless you !